

序)

1. 福音主義神学の特色としての聖書信仰

2. 教理の Sitz in Leben : パッカーや IGBI が述べるように逐語霊感的な聖書の無誤論が教会の古典的正統教理であったとは、考えにくい。ルター、カルヴァン、プロテスタント正統主義、敬虔主義、それぞれ聖書観においては、その時代背景、独特な強調点、全体の流れは異なる。

1. プリンストン神学と理性主義

2. ファンダメンタリズム

- ・ファンダメンタリズム連合
- ・ディスペンセーションリズム
- ・創造科学

3. 英国福音主義の聖書信仰のあり方（米国とは異なる流れ）

4. 戦前日本の聖書信仰

- ・植村、高倉
- ・岡田稔と改革派
- ・中田重治ときよめ派、内村鑑三

5. ネオ・エヴァンジェリカリズムの右と左

- ・カールヘンリーとバナーDRAM
- ・エリクソンとピノック
- ・1970～80年代の保守主義（フラワー神学校論争、シカゴ声明）

6. 戦後日本の聖書信仰

- ・北森嘉蔵、渡辺善太
- ・JPC、J. I. パッカー、
- ・クラレンス・バス、村瀬俊夫、ジェームズ・バー

7. 聖書信仰の態度

——宇田進の神学会での論文2つにも触れます。

- ・客観主義と主観主義
- ・批評学の取り扱い

8. ポストモダンコンテキストにおける可能性

- ・モダンに対するポストモダン（言語と意味論、真理の限定性）
- ・物語神学（ハンス・フライ、ボウカム、N.T. ライト）